

池袋駅コア整備方針

2024



令和 6 (2024) 年 2 月



はじめに

武蔵野田園地帯であった池袋のまちは、日本鉄道品川線と豊島線の開通により、1903年（明治36年）に交通の要衝として池袋駅が開業し、その後の鉄道網の拡充等により、現在では4社8線の鉄道や複数の路線バス・高速バスが乗り入れ、新宿・渋谷と比肩する有数の巨大ターミナルへと成長を遂げ、東京の中核的な都市として発展してきた。

池袋駅は1日200万人を超える駅利用者を抱え、そのうち3/4が乗換利用者であり、鉄道網の結節点となる役割を担う一方で、駅利用者に対してのまちへの来訪機会を逃している側面もある。また池袋駅は、駅と直結した百貨店をはじめとする商業施設が集積し、その東西に位置するまちを結ぶ地下通路等が歩きにくいなど様々な要因から、来街者が駅直近の利用に限定され、駅からまちへ人の流れが拡大せず、まちの東西の回遊が見られない「駅袋^{*}」と揶揄されてきた。今後、池袋の特性を活かし、課題解決を図る取組を進め、次の時代に向けて、さらなる成長を果たしていく必要がある。

こうした状況に対し、2015年（平成27年）7月、特定都市再生緊急整備地域^{*}の指定（池袋駅周辺地域）を契機に「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン」（平成28年・池袋駅周辺地域再生委員会）において、池袋駅周辺地域を「国際アート・カルチャー都市のメインステージ」と位置づけ、池袋の特性であるアート・カルチャーを旗印に、巨大ターミナルが持つポテンシャルに見合う発展型のまちづくりの将来像を掲げた。さらに、「池袋駅周辺地域基盤整備方針2018」（平成30年・池袋駅周辺地域再生委員会）においては、6つの基盤整備の目標と「池袋駅コア」の4つの整備項目の考え方が整理され、4つの公園とその周辺をアート・カルチャー・ハブと位置付け、点在するアート・カルチャー・スポットと連携し、まちの回遊性を高めていくなど、地域の個性を際立たせるまちづくりの方針を示した。

この「池袋駅コア整備方針2024」は、「池袋駅周辺地域基盤整備方針2018」の具体化を図るとともに、池袋駅周辺地域の価値をより高めるため、「人中心のウォークアブル^{*}なまちづくり」を進めていく視点を新たに取り入れ、「駅袋」の脱却を図ることとしている。特に池袋駅西口エリアについては、再開発の検討が進んでおり、こうした池袋駅周辺地域の状況を踏まえて、誘導すべき都市機能や都市基盤などの整備方針を取りまとめたものであり、今後、行政、鉄道事業者、地権者、開発事業者等が連携して取り組むべき内容を示している。

なお、池袋駅東口エリアについては、環状5の1号線開通後の明治通りのクルドサック化^{*}に向けた検討を区が中心となって進め、その進展状況をみながら、今後、本整備方針を更新していくこととする。

目次

1	池袋駅コア整備方針 2024 の目的	1
2	池袋駅コア整備方針 2024 の目標年次と対象範囲	2
3	まちの成り立ち	2
4	池袋駅周辺地域の特性と課題	3
5	池袋駅周辺地域の将来像とまちの発展イメージ・本整備方針のコンセプト	5
	「脱・駅袋」を実践するための要素と方針	7
	方針① アート・カルチャーの魅力で人を集める	
	取組1 多様な都市機能の集積と連携を図り、拠点性を高める	9
	取組2 持続可能なアート・カルチャー活動の展開	13
	方針② 駅からまちへ人を広げ、まちの東西の回遊性を向上する	
	取組3 駅とまちが一体となった都市空間の創出	15
6	取組4 他地域とのアクセス性を高める交通結節機能の強化	19
	方針③ みどりで回遊・滞在の質を高める	
	取組5 歩きながら潤いを感じられる質の高いみどりの整備	20
	取組6 地域の人々に愛され親しまれるみどりを育てる	21
	方針④ 持続可能な都市インフラでまちを支える	
	取組7 大規模ターミナルとしての防災性を高める	22
	取組8 環境に優しいまちづくりに取り組む	22
7	池袋駅コアの整備イメージ	23
	・関連上位計画等	29
参考	・池袋駅周辺地域再生委員会	30
	・用語解説集	31

本文中において、特に解説が必要な語句は、末尾に「*」を付している。用語解説集 (P.31～32) を参照。

1 | 池袋駅コア整備方針 2024 の目的

「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン」において、池袋駅周辺地域のまちづくりの将来像を「国際アート・カルチャー都市のメインステージ」と定めており、この実現に向けては「池袋駅周辺地域基盤整備方針 2018」に示した「池袋駅コア」ならびに池袋駅周辺の都市開発において、一体的に整備すべき都市機能及び4つの整備項目（駅まち結節空間・東西連絡通路・東西駅前広場・駅関連施設）を具体化するため「池袋駅コア整備方針 2024」を策定する。

■池袋駅周辺地域のまちづくりの将来像・池袋駅コアの特徴

世界中から人を惹きつける「国際アート・カルチャー都市のメインステージ」

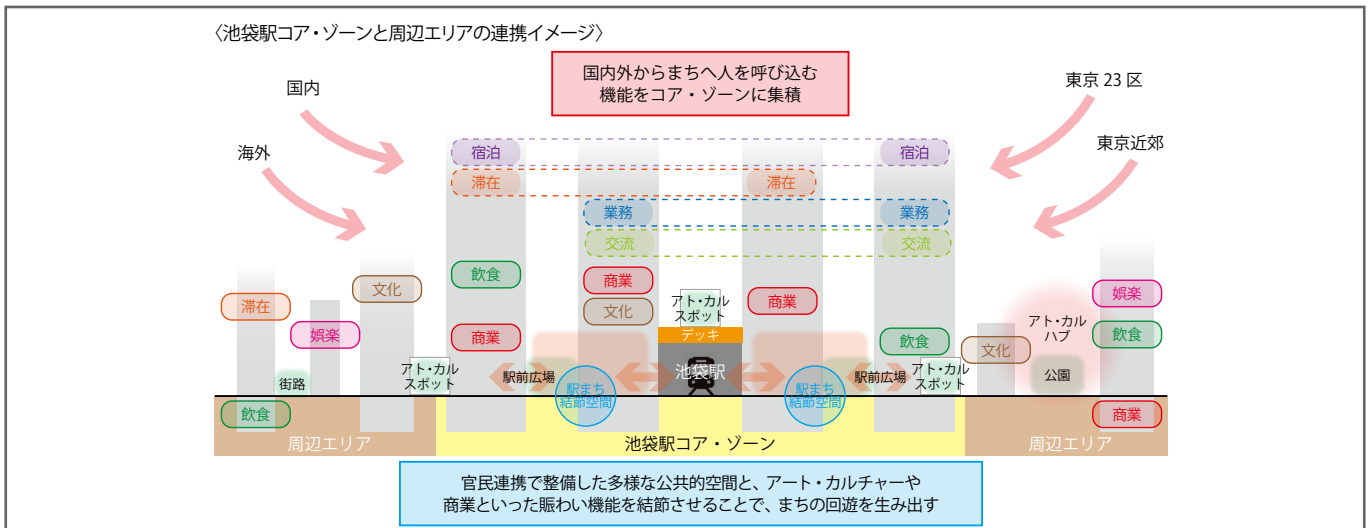
界隈を歩き、にぎわいと四季の彩りを感じるまち・池袋

アート・カルチャーの魅力で、世界中から人を呼び寄せ、新文化・新産業を育む

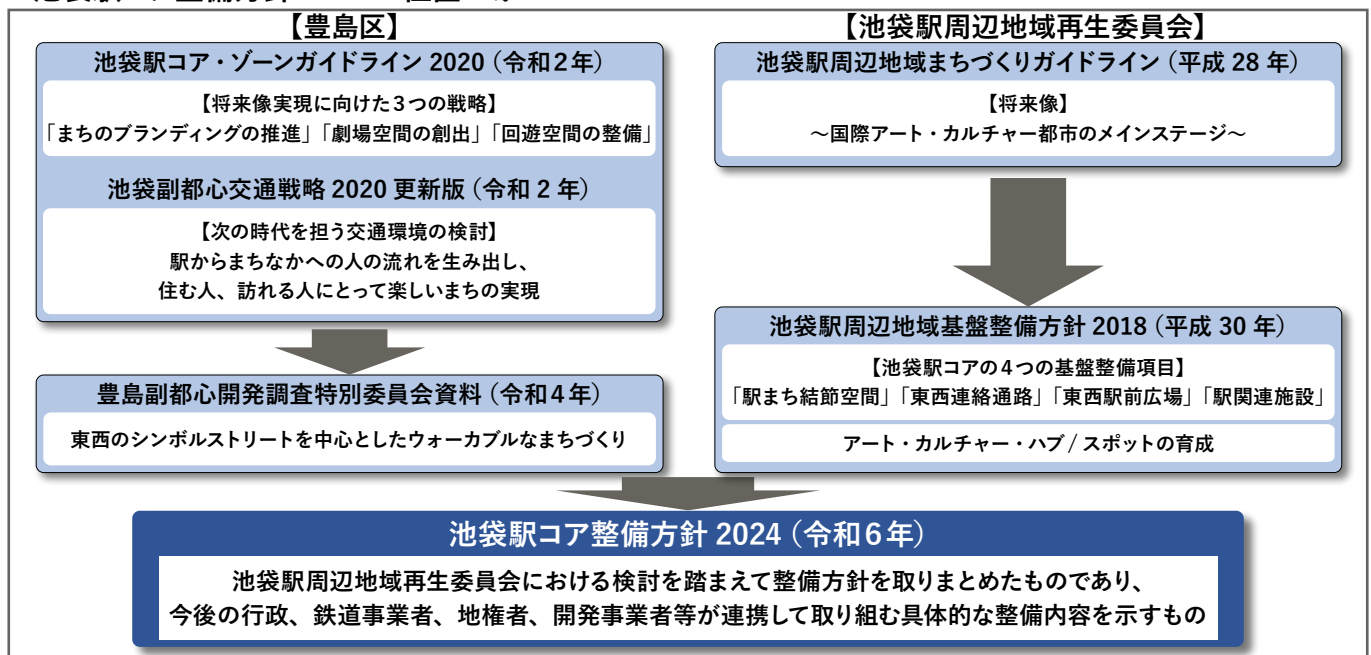
都市空間を人間優先へ、誰もが主役になれる舞台に

先人が培ってきた文化資源を生かしながら、新たなまちづくりへ

出典：池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン



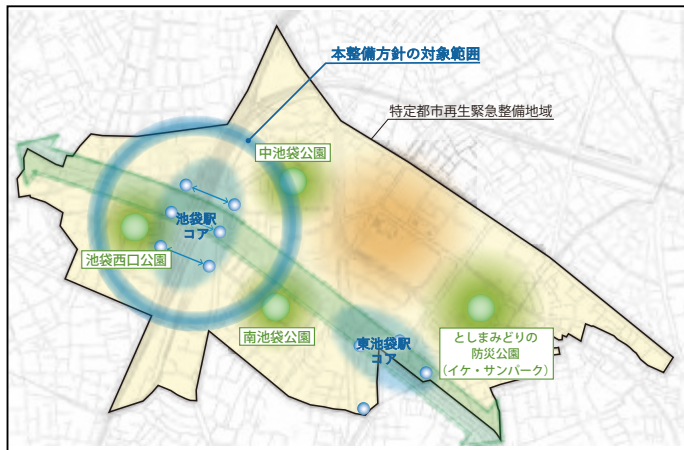
■池袋駅コア整備方針 2024 の位置づけ



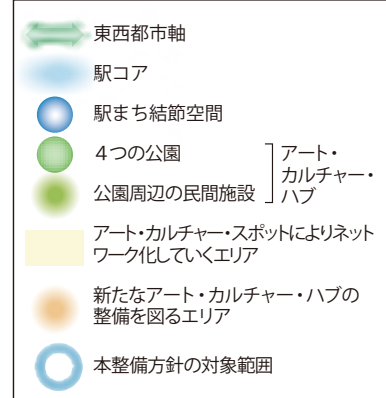
2 | 池袋駅コア整備方針 2024 の目標年次と対象範囲

「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン」で示している目標年次は 2035 年に対し、現在のまちづくりの動向を踏まえ、本整備方針では、2040 年代のまちの姿を想定する。また「池袋駅周辺地域基盤整備方針 2018」に示した「池袋駅コア」を含む以下のエリアを本整備方針の対象範囲とする。

■池袋駅コア整備方針 2024 の対象範囲



<凡例>



※アート・カルチャー・ハブ / スポットについては、P.10 を参照

3 | まちの成り立ち

1903 年（明治 36 年）池袋駅の開業以降、駅を中心にまちが形成され、百貨店などの商業施設が集積し発展してきた。平成以降は、東京芸術劇場などが整備され、芸術・文化のまちとして成長し、近年では公園等のリニューアルにより、区内外から家族連れや外国人観光客が集まるなど、賑わいがあふれ、新たに注目を集めている。一方、池袋駅は鉄道や駅前の車道などの交通インフラにより東西のまちが分断されており、まち全体の回遊性が乏しいなど、取り組むべき課題が残されている。

